

肺がん分子標的治療における薬剤抵抗性細胞の解明と新規診断・治療法の開発

① アピールポイント



准教授
山田 忠明

肺がん患者さんの新たな診断・治療法を臨床に届け、肺がんの個別化医療の実現に貢献します。

② 研究の出口のイメージ

肺がんにおける分子標的治療に対する治療抵抗性細胞の機構解明を通じて、その診断・治療法について臨床開発を目指した研究に発展させます。

キーワード

肺癌、分子標的治療、治療抵抗性、治療法開発

研究内容

我が国においてがんの死亡原因トップである肺がん患者さんの治療薬として、複数のがん分子標的薬が開発されています。しかし、一部のがん細胞が死なずに生き残り、最終的に耐性を獲得して再び大きくなるのが問題となっています。これらの耐性原因とその治療法に関する研究が行われていますが、新薬開発と耐性化とのいたちごっこが続いています。さらに、最近の研究から、がん治療における「治療抵抗性細胞」の存在が明らかになり、がん研究の領域において注目を集めています（図）。この抵抗性の細胞は治療開始時から薬の効果が高く、薬による細胞死を免れることが知られています。

本研究では、肺がんの抵抗性細胞の診断・治療法の開発を目指した取り組みを行っています。

将来的には新しい治療法について臨床試験で効果や安全性を評価していきたいと考えています。治療効果が乏しい肺がん患者さんの治療成績を向上させることができれば社会に大きな貢献が期待されます。

